

学校法人国際学院は平成 25 (2013) 年に創立 50 周年を迎えました。

学校法人国際学院創立 50 周年記念事業

募 金 趣 意 書

「人づくり教育」半世紀



学校法人国際学院
国際学院埼玉短期大学
国際学院中学校高等学校

国際学院創立 50 周年記念事業に対するご支援のお願い

学校法人国際学院は、建学の精神である「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」と「礼をつくし、場を清め、時を守る」という教育方針を柱に教育研究活動を実践し、平成 25 年 12 月に創立 50 周年という節目を迎え、国際学院埼玉短期大学は開学 30 周年、国際学院高等学校は開校 15 周年を迎え、平成 25 年 4 月中学校を開校することとなりました。これも偏に、皆様方のご支援、ご協力の賜と心から感謝申し上げます。

昭和 38 年に女子教育の必要性と食生活の改善、向上を目指して「公認大宮国際料理学院」を開設し、その後、幾多の変遷を経て、現在の短期大学、中学校高等学校の 2 校を擁する学院に発展して参りました。短期大学、中学校高等学校の 2 に共通する理念は「人づくり」教育の精神であり、ここまでの道程は、正に人間教育に邁進してきた 50 年間であり、皆様方のご指導、ご鞭撻のおかげであります。

国際学院は、この 50 周年を機に、「人づくり」教育の充実と未来へのさらなる発展を目指し、学科の新設を視野に入れた短期大学新構想策定プロジェクト、中学校の充実、教育環境整備のためのキャンパス・リニューアルプロジェクト、記念式典、記念講演会の実施、並びに記念誌発行等の「国際学院創立 50 周年記念事業」を実施することといたしました。

つきましては、これらの記念事業の遂行にあたり、皆様からの創立 50 周年記念事業募金へのご支援を賜りたく、心からお願い申し上げます。

学校法人国際学院 理事長・学院長	大野 誠
国際学院埼玉短期大学長・国際学院高等学校長	大野 博之
学校法人国際学院 理事	松本 昌雄
学校法人国際学院 理事	小室 大
学校法人国際学院 理事	水田 浩
学校法人国際学院 理事	新藤 享弘
学校法人国際学院 理事	柴崎 篤房
学校法人国際学院 理事	橋本 信也
学校法人国際学院 理事	丸山 晃
学校法人国際学院 監事	小川 休衛
学校法人国際学院 監事	清水 武信
学校法人国際学院 後援会長	塗師 祥一郎
国際学院埼玉短期大学同窓会会長	福森 啓
国際学院埼玉短期大学同窓会けやき会長	新野 忠史
国際学院埼玉短期大学同窓会つくし会長	中村 治美
国際学院埼玉短期大学同窓会あすなろ会長	大野 智子
国際学院高等学校保護者会長	國見 美喜子
国際学院高等学校同窓会長	小国 諭

国際学院の使命

我が国が国際社会の中で発展していく上で、教育の果たすべき役割は極めて大きいものがあります。教育は国家存立の基盤であり、その国の大切な社会的財産であることから、その質は何があっても維持しなければなりません。

本学院では、開学以来、「誠実・研鑽・慈愛・信頼・和睦」の建学の精神のもと、実践的、経験的な専門教育とともに、人間教育に重点をおいた「人づくり」に力を注いでまいりました。「礼をつくし、場を清め、時を守る」という教育方針は、昭和 38 年の学院創立当初から掲げられ、当たり前のことを当たり前前に実行することにより、豊かな人間性を備えた人材を数多く輩出してまいりました。この歴史と伝統を継承し、未来を担う人材育成をとおして社会貢献を果たすことこそが国際学院の使命といえます。

これからも、本学で学んだ人が社会から高い評価を得ることを目的として、短期大学においては、専門職業人としての専門知識や技術に加え、豊かな人間性を備えた、それぞれの分野で「尊敬される人」の育成を目指します。高等学校においては、人格形成と学力保証を基本に、社会において「尊敬される人」の育成を目指します。さらに進展する国際化の中では、広い視野を持ち、国を越えて相互に理解し合うことが大きな課題となっており、学生生徒が我が国の歴史や伝統を身につけ、自分自身の座標軸を明確にし、自己の確立を図りながら未来を担っていくことが強く期待されています。

以上のことから、本学院の使命を『建学の精神を礎に、国際社会の中で尊敬される「人」の育成』とし、国際化時代の中で、日本人として誇れる「人づくり」を目指します。

創立 50 周年記念事業の概要

◎短期大学新構想策定プロジェクト

幅広い教養教育と、実際の専門教育及び実践的な技能を習得できる職業教育を提供している短期大学の役割を再認識し、新学科設置に向けたプロジェクトを発足する。

◎国際学院中学校の充実

平成 25 年 4 月開校の国際学院中学校では、「確かな進学指導」「深める国際理解」「豊かな人格形成」により、21 世紀の世界で活躍できるグローバルリーダーの育成を行う。

◎キャンパス・リニューアルプロジェクト

教育研究水準を維持・向上するための教育施設・設備を含む教育環境の整備を行う。

◎記念式典、記念講演会等の実施、並びに記念誌等の刊行

学院創立 50 周年記念式典、公演会等の実施、並びに記念誌等の刊行により、学院の歴史と伝統を継承し、未来に向かって大きく成長する機会とする。

募金要項

募金の名称	国際学院創立 50 周年記念事業資金
事業費の見込額	5 億円
寄付金の目標額	1 億円
募集期間	平成 24 年 4 月 1 日～平成 26 年 3 月 31 日
募集の対象	趣旨に賛同される個人・法人・団体
募集の方法	法人：一口 30,000 円。(3 口以上お願いいたします) 個人：一口 10,000 円。(3 口以上お願いいたします) ただし、金額にかかわらずありがたくお受けいたします。

□寄付申し込み・払込み方法について

個人の場合 ※申込書、振込用紙などをご希望の場合にはご連絡ください。ご郵送致します。

- 「寄付申込書(個人用)」に所要事項をご記入の上、「国際学院創立 50 周年記念事業推進委員会」にお申し込みください。
- 「払込取扱票(振込通知書)」の振込先にお振り込みください。※別紙の「払込取扱票(振込通知書)」を出力(印刷)した用紙では、金融機関でお取扱いできませんのでご注意ください。

法人・団体の場合 ※申込書、振込用紙などをご希望の場合にはご連絡ください。ご郵送致します。

- 「寄付申込書(法人用)」に所要事項をご記入の上、「国際学院創立 50 周年記念事業推進委員会」にお申し込みください。
- 日本私立学校振興・共済事業団経由の指定寄付金(全額損金扱い)を希望される場合には、学院宛寄付申込書の他に同事業団宛の寄付申込書にもご記入の上、お申し込みください。
- 「払込取扱票(振込通知書)」の振込先にお振り込みください。※別紙の「払込取扱票(振込通知書)」を出力(印刷)した用紙では、金融機関でお取扱いできませんのでご注意ください。

寄付金に対する税制上の優遇措置について

個人の場合

その年の、本学に対して行った寄付合計額のうち2千円を超える金額につき適用されます。
《税額控除》の場合

$$(\text{寄付金額} - 2 \text{千円}) \times 40\% = \text{税額控除額}$$

総所得金額等の40%が限度

所得税額の25%相当額が限度

例 3万円を寄付すると11,200円が所得税から控除されます。

《所得控除》による場合

$$\text{寄付金額} - 2 \text{千円} = \text{所得控除額 (総所得金額等の40\%相当額が限度)}$$

● 申告の方法

対象となる金額を記載し、確定申告書に本学院の発行する領収書（寄付金受領証明書）を添付する必要がありますので、必要書類の発行は、本学院総務部までお問い合わせください。また、詳細についてはお近くの税務署にお問い合わせください。

法人・団体の場合

「寄付申込書（法人・団体用）」の裏面をご覧ください。

△受配者指定寄付金制度………寄付金の全額を損金に算入できます。

- 日本私立学校振興・共済事業団発行の「寄付金受領書」が領収証となり、確定申告の際、寄付金の全額を損金に算入できます。
- 事業団に振り込まれた日付が受領証の日付となります（本学院へのご入金の日付と一致しません）。通常、寄付金をいただいてから本学より日本私立学校振興・共済事業団へ入金し手続きが全て完了するまで1ヶ月半から2ヶ月ほどかかりますので、決算期換金処理される予定の場合は、遅くとも決算月の1ヶ月前にお振込をお済ませください。

△特定寄付金制度………次により損金算入することができます。ただし、本学院以外にも寄付をされた場合には取扱が異なりますのでお近くの税務署にお問い合わせください。

$$\text{損金算入限度額} = (\text{資本金} \times 0.5\% + \text{当該年度所得} \times 7.5\%) \times 1/2$$

□個人情報の保護について

寄付金申込書等にご記入いただいた個人情報は、本学院の「個人情報保護規程」に基づき適正な管理・保護に努めます。なお、寄付者芳名録の際に匿名を希望される方は、寄付申込書の匿名希望欄にマークをして提出してください。

寄付者の顕彰について

ご寄付をいただいた方については、寄付者芳名録に記載させていただきます（匿名希望者を除きます）。

学校法人国際学院

〒330-8548

さいたま市大宮区吉敷町2丁目5番地

◆お問い合わせ

創立50周年記念事業推進委員会

TEL: 048-641-7468 / FAX: 048-641-7432

E-mail: kikaku@kgef.ac.jp